

刊夕日九廿月九



定額 一月五元 三月十五元 半年三十元 一年六十元
廣告 第一號 一行五字 五元
第二號 一行五字 三元
第三號 一行五字 二元
第四號 一行五字 一元
第五號 一行五字 五角
第六號 一行五字 三角
第七號 一行五字 二角
第八號 一行五字 一角
第九號 一行五字 五角
第十號 一行五字 三角
第十一號 一行五字 二角
第十二號 一行五字 一角
第十三號 一行五字 五角
第十四號 一行五字 三角
第十五號 一行五字 二角
第十六號 一行五字 一角
第十七號 一行五字 五角
第十八號 一行五字 三角
第十九號 一行五字 二角
第二十號 一行五字 一角

成辰の覺書

漆原市郎左工門手記

平陽老人

(三)

一聞四月九日頃仙臺重臣より重役之者罷出候様申來候但此書翰使之者取落三四日過途中にて拾ひ相届候
同日三田八彌室衛平白石表江出立仕候
一 同月八日夜參謀長より早飛脚を以兼而相達置候討會應援出兵來る十日迄に白川江到着可致旨申來候依而早速操出可申候得共同所迄二十里程有之十日迄には逆茂到着難相成に付參謀衆へ延着爲届竹尾直右衛門、横徳之助早馬は而罷出候處白川御城内に參謀世良脩藏殿出張二本松藩和右文取次を以申立候は一昨九日曉討會應援出兵當所迄操出候様御達に付奉長候早速平城内出立仕候得共里數二十里餘有之殊に山路通行仕候事に付私共單身に而罷越候事も手間取候事に付兵隊の義十日迄には逆茂到着難仕兩三日相後れ可申旨申述候處無據事に付聞届候旨挨拶有之被申聞候に付素より少人數之處先達而主人上京供にも召

れ其上小名濱に警衛人數差出置且當節浮浪徒隣境徘徊仕旁城内外手薄に仕兼候小名濱之儀は近所に付自國之固同様之事に候得共當所迄相離し人數増差出候而は手薄に相成候旨申述候處小名濱警衛之儀は湯長谷相應之旨被申聞候由折節町宿に相成孫三郎殿被居候に付面會手代田口安五郎と談合之白川出張の方少人數に而相濟候様仕度小名之方警衛致度には程能申立相頼候内參謀衆より湯長谷に小名警衛人數出之儀早飛脚

ノート

陶製器を白くするには重炭酸ソーダ湯呑茶碗一杯を水一升到溶いたもので拭ひます
差立に相成候且孫三郎殿被申聞候は兼而御頼之上京村之儀は迄御不都合不相成様骨折候處此度御鎮撫使より御達に而早々請取候様之達に付此儀表向小名手代より御引合可申候得共此度は是非御引渡

無之事は不相成旨申聞候直右衛門歸着申出候之小名濱人數引取之儀安藤哲藏より掛合引取申候
一 右上知早々引渡候様小名手代より掛合有之尤昨年迄之相成は被下候旨御鎮撫使より御達之趣申來候

【書】土佐煮—あぢ土佐煮 松茸 三杯酢
【晚】わん—むさみ 焼豆 腐 薄くす かけ 生姜
間郡奉行差出尚又御猶豫歎願之儀相頼候田口安五郎申聞候は當節御催申候儀は其筋より講取候様御達に付及御掛合候御頼之趣は孫三郎江申遣候に付書面に事差出候様申聞候右に付御歎願書上坂助太夫殿名前に事小名江漆原市郎左衛門持參差出申候森孫三郎殿御郡代被仰付候得共尚又仙藩江依頼之方可然評議にて廿七日頃市原五郎兵衛桑折江出立歎願書差出申候

文藝募集

地相相 家相相 百人定 事定 相断 象定
平野 高澤 島野 易定 断象 前所 一前 堂町 平野 高澤 島野 易定 断象

九月廿日己亥四線赤口満る【白】新全時直しの念が起る進んで吉なり丑寅と未申は凶なり【黒】金は手に入り貴ひ物あり長男長女の喜悦のあり日東西凶【三碧】金談より家内に不和を起す事あれば總て目上と相談吉戌亥と辰己に凶【四緑】萬事抄々しからざるの凶日なれば控目にして明日を待つが徳作なり【五黄】獨斷獨歩して凶を醸す日なれば目上と相談以て吉なり辰己と戌亥凶【六白】人に煽動されて階段より落ちぬ様又婦女子の件より風波を起す勿れ東西凶【七赤】病氣怪俄紛失盜難に注意して萬事は明日が吉未申と丑寅が凶【九紫】營業上大利を得る日然し水火の難と眼病に注意南北凶

黒小倉通學服賣出

冬服の御用意をなさいましたか
弊店は御満足の頂ける黒小倉服を
澤山取揃へ特價にてお務めしてお
ります

小學生用(長ズボン付)	
A	90
B	1.10
特製	2.50
中學生用	
特製 6號	3.50
御注文(特上)	6.50

ふかや洋服店 平野 三 電話 203

品質第一

電話二六八番

平搾乳所

平町・九品寺前

小兒科 内科

特三乳幼兒ノ健康相談ニ應ズ。
平町 ねずみ坂
渡邊醫院
電話一六一番

旭硝子株式會社製品

赤菱印 板ガラス
菓子壘 菓子食器
其他各種

松崎硝子製作所

平町新川町(電話一四二番)
仙臺市榮町(電話五九七番)

正木織物店ノ生命也

絹織物、正木織物店へ
開業三十五週年を祝するため
二割引にて大々的勉強御註文
に應ず

平町字新町貳十貳番(公園下)
御註文ノ時(呼出六七四番)へ店員伺ヒマス

正木織物店

白生地 賃織販賣

金銀高價買入

各國時計、眼鏡、貴金屬
御修繕は専門の當店へ

根本時計店

平二(電話六〇七番)

毛糸

今年度新色全部揃へました。
何卒御来店下さい

ハシモトヤ糸店

平・田町 電話十四番

木炭の騰貴に

山林買入競争猛

來月の國有林拂下百十八

であらうと

石城郡下の木炭相場は需要期に入り品不足の爲め昨年の二割乃至三割五分の高値を示し尙上向きを豫想されて居る爲に救急事業等に勞役して糊口をぬらして居た炭業者は續々金の工面をして山林を買入れたり國有林の拂下申請に憂さ身をやつして居り來月三日入遠野村役場で行はれる平營林署管内國有山林の公賣入札数は入遠野六ヶ所、田人七ヶ所、貝泊四ヶ所、石住二ヶ所、合計十九ヶ所また同月六日川前村役場の同入札数は川前村八十ヶ所、三坂十一ヶ所、合計九十九ヶ所と云ふ多數に及んで居る有様で木炭の騰貴と共に山林買入競争は今後一層猛烈を極める

永戸聯合競技

石城郡永戸箕輪組合村の箕輪第一校、同第二校、永井校、渡戸校、合戸校の聯合秋季運動會は來月七日午前九時より箕輪第一校庭で開かれる

篠山校長

三日に赴任

既報安達郡本宮小學校長より平第一小學校長に榮轉された篠山廉氏は來る十月三日平着午後零時五十五分に着任せられると

柿の苗木六百本

無償配布し指導

農閑期の生産増加に

石城郡農會では縣農會の後援を受け農閑期に入る十一月頃の農家生産物の増加を圖る爲め神谷村に對し柿の苗木六百本を無償配布し技術員が出張指導に當る事に

農事特別講演

石城郡神谷村農事試験分場では來月四日午前九時より同場内に特別傳習會を開き郡山

落成の喜び

第三校の増築落成式に

青沼町長が報告

既報平第三小學校増築落成は來月一日午前九時舉行されるが青沼町長の工事經過報告左記の如くである

平第三尋常小學校階上校舎八六二、三六四五平方米及

階段室四六、八一〇四平方米、合計九一二、一七四九平方米(此總坪數二百七十五坪三合九勺)の増新築を要するを以つて去る三月十六日入札を執行したるに一萬二

千三百八十圓にて丸山慶治に請負はしめ今月十五日工事に着手したり更に七月十七日工事の一部たる建具工事の入札を執行したるに三回共に豫定價格以上なるを以つて千三百三十八圓六十六錢にて橋本喜七と隨意契約を以て同人に請負はしめたり

其間降雨 並に工事の一部變更を要したる爲め兩者共に十日内外の延期願ありたるも工事は殆んど完了したるを以つて八月卅一日下検査を施行したるに九月一日授業開始の階下教室には何等支障なかりき、八月末日検査に際して工事中の壁のみは乾燥充分ならざる爲め建具の

保存等に 關し將來を考慮し任意延期を爲したる處九月十八日丸山慶治より竣功届出ありたるを以つて九月二十六日同工事の検査

本場の宇山技師の「堆肥の作り方と施用法に就いて」講演がある

兒童選手休養

愈々明後一日に迫つた石城郡第三區兒童競技會に出場する平第一校選手は本日午前十時より磐中グラウンドに於て係指導コーチの下に最後の練習を行つたが明日は充分休養すると

応援團に

送られて

晴れの遊友チーム

過般演三郡野球大會に粒入りのチームを破り見事優勝し榮冠を荷つた平遊友チームは來る十月一日郡山市開成山球場で開催される縣下大會に出場した若松福島兩代表と覇を争ふ事になり一日午前六時局前集合自動車を出發するが當日は小林主事外三十餘名の応援團員が數臺の自動車に分乗し應援旗をかざし同行すると

營林署長更迭 平營林署長内村千里氏は昨日附高知縣本山營林署長に榮轉されたが後任は鳥取營林署長齊藤陸郎氏であると

營中臨時試驗 營中では來る十月二十八日より五日間第二學期臨時試驗を行ふと

湯本校運動會 石城郡湯本小學校の秋季運動會

統計委員講習 石城郡永戸村萩謙一氏は來月一日より三ヶ月間内閣統計局で開催される統計局員講習會に本縣を代表出席すると

競技の打合せ

過般の委員會で決定された石城郡第三區兒童競技會の役員會は本日午後二時より平第一校に競技の打合せをした

農試場長出發

齋藤神谷農事試験場長は明廿日伊達郡石黒村に開催される果樹品評會の審査長として今朝九時平驛發列車で出發した

は明廿日午前八時より同校々庭に開かれる

平町人事

△五丁目五 當時茨城縣磯原町字磯子三九八高橋鐵太郎氏長女和子
△搔樋小路一 鈴木政勝氏四女トキ子
△結婚 姻
△栃木縣上部賀郡今市町今市七六二長島ケイ(四〇〇) 平町一丁目五〇平野井國雄(三〇〇)
△回死 亡
△月見町二三戸 主菅野徳三郎(六四)

外務社員採用

初任固定給 月三十圓

二十五才以上男女を問はず履歷書携帶左記へ面談。毎日午後平町田町一七 レストランサンロウカ 仁壽生命平駐在 吉田仁三郎 電話三五二纏

外科

門 專 光 X
科 線 上田外科醫院
平町南町 電話一二九番

三井タクシ

平町二丁目 電話六八五番

木村外科醫院

花柳病科 門專
院醫科外村木
際橋目丁五町平 〇九三話電

一夜に

舞ひ込む廿圓

露店商人の景氣の好い話

農村漸く立直る

數日前の小川村二尾山の祭りに露天商ひをしたもの、話しに依ると露天店が何れも大繁昌で大半はみな賣り盡して終つた由で或る香具師の如きは一夜の内に廿圓以上ものバナ、を叩き賣つたとの景氣の好い話、これは附近の農村が豊年見越しの前祝ひ気分と爾高や匡救工事等で懷中が温つた關係からであらうと、茲にも農村の立直つた姿がほのかに見える。

禁取期間に

注意されたいと

検事局の緒形監督語る

例のワカメと蛤事件續發

禁取期間中のワカメや蛤貝を採取して處罰されたものは既記の如くであるが又々

石城郡小名濱町下町七一横山西治(三)同泉村剣ノ濱海岸でワカメ二十貫匁、同町字中坪五九平光(三)は同二十三貫匁、同町字下町七五佐藤千治(五)は同六貫匁、同所七二笹川實松(三)は同五十一貫匁、同町字上町二七小磯子之助(三)は同二十貫匁、同町字中坪四四丹野甫(三)は同二十貫匁、同町字定西八七佐藤兼吉(五)は同四十七貫匁、同町字竹崎一三〇佐川安吉(三)は同

衝突負傷

小名の自動車

石城郡小名濱町下町平野自動車店運轉手鈴木隣三(三)は廿七日午後二時半頃トラックを運轉中東白川郡宮本村大字松川字横川地内縣道で同村字水沼鈴木正八(三)に衝突し左足に全治二週間の傷を負はした

秋季衛生

平署會議

衛生主任招集

平警察署では來月三日午前九時より會議室に於いて管内各町村衛生主任を招集し秋期清潔法執行に就いての打合せを行ふ

子供を背負つて

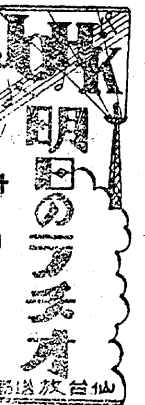
不幸な男が放浪

病と闘ひながら

平役場へ救助願ひ

二十七日夕刻平町役場に女の子供を背負つた一人の男が訪れ旅費の

支給方を願ひ出たが此の男は函館ドック會社の



明日のラジオ 風晴曇半 今夜も明日のラジオ

今晩の部

- 後六、〇〇 子供の時間 童話劇「葡萄祭」J.C.A.K. 唱歌隊
- 後六、二五 基礎佛語講座 (六) 目黒三郎
- 後七、三〇 講演「太平洋會議に現はれたる各國の政策」信夫淳平
- 後八、〇〇 ラヂオドラマ (放送文藝作品)「東京の人達」(櫻井武二作) 伊志井寛 其他
- 後八、四〇 連續新講談「安政の大獄」【終席】伊藤痴遊
- 後九、三〇 時報 ニュース 氣象通報 番組預告
- 明日の部
- 後六、三〇 基礎佛語講座 (八) 橋本忠夫

死去し

折合ひ悪しく叔父の善次(三)が若松市に於いて農園經營中なのでこれを頼つて生活すべく去る廿日妻ヨシ(三)長女幸(三)と三人連れ

小作料二千六百圓

村からの請求調停

既報双葉郡大野村が村長石田弼常氏を法定代理人として同村民渡邊茂外十六名を相手取り平支部に同村の基本財産地及び小學校の基本財産地である田畑に對する昭和元年からの滞納小作料二千六百餘圓の調停を申立てた事件は昨日午前九時より大野村役場に於て中島判事係り澤田書記及び本縣丸山小作官補立會同村片來十四氏廣島廣一氏の兩調停委員列席の下に調停會を開き土地は從前通り小作し滞納小作料は其金高に依り夫々適當の年賦で支拂へ若し三ヶ

火防道路

磐女が拓く

磐女校は高臺の關係上水利の便悪しく火急の場合を憂慮されるので此の程校庭前の櫻堀端迄長さ十五間巾二間の通路を拓き平消防組自動車ポンプの運轉試驗を行つた

物見岡の祭り

平町城山物見ヶ岡稻荷神社の祭典は來る十月三、四の兩日

内郷梨品評

けふ御台境で

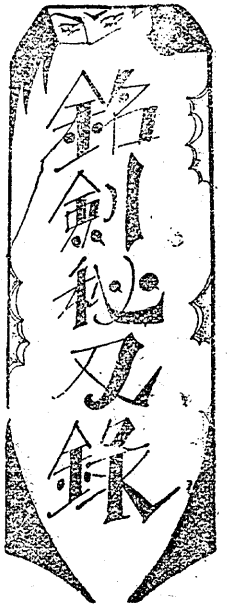
石城郡内郷村果樹組合では本廿九日午前九時より同村御台境に於いて梨の品評會を催し郡農會青山技師が出席した

裁判所だより

- △相馬郡原ノ町大字新町字大橋本三養蜂業高野儀兵衛(四)は無免許で去る七年五月頃より本年八月頃迄二十數名の齒を治療し夫々料金を取り齒科醫師法違反として罰金百五十圓に本日平區裁判所に於て略式命令を以て處分された
- △犬猿もたぐならぬ仲であつた男を棍棒で毆打死亡せしめた山田村大平武(三)に對する傷害致死事件の準備公判は本日午前九時より平

平職業紹介所報告

- 回人を求める方
- △農夫 五十迄 月十五圓 外面談(鹿島村某)
- △看護婦見習 十七才 高卒月五圓(平町某)
- △女中 二十迄 委細面談(平窪村某)
- △小店員 十九才 尋卒 給料面談(平町某)
- 回職を求める方
- △土木現場監督 三十八才 青年卒 給料面談(内郷村某)
- △出前持 二十五才 尋五 給料面談(平町某)
- △石工 四十一才 尋卒 給料面談(内郷村某)



【禁無斷轉載上演映畫】

寶井馬琴 演
山本英春 畫

第五十二回 血に飢ゆる村正

馬鹿に擔がれる

多「清助能くいつた、馬鹿の汝がいふ事なら満更嘘でもあるめえ熊支度をしろ」
熊「エー宜しうございます向ふも秀吉が附いるに相違ねえ、親分は親分同志子分は子分同志でやつけませう」
多「ウム、俺も勘五郎の野郎を殺して五百兩引奪りやア當分の路銀になるのだ、サア熊、宜いか」
と二人は襷を掛けて長刀の柄へ手を懸け待つて居る處へ、メツバの勘五郎、秀吉を連れて土藏から出て参りました、是を見るより腹太多七

多「勘五郎旨い事をしたなア何にもいはねえで二ツ割にしろ、然うしたら命は助けてやる、四の五の吐かしやア仕方がねえ入らねえ命まで貰はにやアならねえ、黙つて茲へ出して下へ」
勘「誰だと思やア多七だな數から棒に出せとは何だ」
多「隠すない、汝がめめた五百兩黙つて二ツに割れといふのだ」
勘「ナニ、五百兩とは何の事だ」
多「幾ら汝がシラを切つて

も馬鹿の清助が證人だ、金を取つたら直ぐに高飛びでもするが宜い土藏へ這入て雜物まで持つて行かうとは惡どい奴だ、尋常に渡さなければ腕づくでも貰つて行く」
勘「外ぢやアねえがマア見ねえ、お前と俺と命の取りか」
多「後れたのか、金を出すか」
勘「イヤ後れやアしねえが少うし話があるから暫時、刀を引いて呉れ、又若者も刀を引くが宜い」
多「無暗に刀を引けといふなアどうしたのだ」
勘「外ぢやアねえがマア見ねえ、お前と俺と命の取りか」



と腹太多七は長脇差を引抜いてメツバの勘五郎へ切て懸る、勘五郎も長脇差を抜き合して、何をすると切り合せる見て居る子分二人は、サア始まつたと、秀吉は熊藏へ切て懸る、熊藏も心後たりと抜き合して二人所で切合が初まりました、

多「清助が何といつた」
勘「汝が来て、泣いて頼むのを聞かぬで五百兩胴巻に入れて肌につけた上に雜物を背負て行くといつて土藏へ行つたから、今來だら半分持つて行けといやがつた」
多「然ういふ奴だ、多七俺ア今裸身になつて見せるが鑑一文だつて取りやアしねえ、野郎の云ふにやア土藏の中に金があるから持つてだけ持つて行けの、背負へるだけ背負て行けのと吐しやアがるから、土藏へ行て見たら缺けた錢せい見えやアしねえ餘り腹が立つから野郎を引叩こうと思つて今、土藏から出て來たんぞ見ねえ此の通りだ」
と勘五郎が裸身になつて振つて見せたが固より胴巻所か、何もありません

多「ヤイ清助、汝は嘘を吐きやアがつたな」
清「アハ、ハ、露顯をしたか、實は一人がメツバの親分だし此方は多七さんだからキツト切合ひ位するだらうと思つて夫で、一寸然ういつて見たんだ」
多「野郎飛んでもねえ事をしやアがる、一ツ間違やア命がねえや金を受りに來たのか」
勘「まだあんな事を吐かしやアがる」
多「金が入用だから來たんだ」
清「そんなら話をするが世間で俺の事を何の清助といふか知つてゐるか」

清「汝の事は馬鹿の清助といふぢやアねぞか」
勘「ソレ見ねえ、家の旦那が端た錢から何千兩といふ金を拵へた人で年頃になつても女房さい持たねえで爪へ火を點す様にして金を拵へる人が、江戸へ行く留守

を俺に任して置くのに一分の金でも置いてゆくやうな旦那ぢやアねえ、又幾ら金を領かつても大丈夫に守つて居るなら、人が馬鹿の清助と言やアしねえ、お前達も長脇差だとか、無職だとか云ひながら馬鹿が一人居る處へ來て金を出せのと言ひなされるから俺より餘程馬鹿な親分達だと思つて夫で先刻から嘘を吐いたんだ馬鹿にかつがれる奴がある者か」
多「是やア驚いた、馬鹿所ぢやアねえ中々俺達ア叶はねえ」
勘「ぢやア、マア斬り合は止めだ、若けえ者も其の積りで刀をおさめろ」

耳鼻咽喉科専門

大和田醫院

平町南町 電一〇七

清「汝の事は馬鹿の清助といふぢやアねぞか」
勘「ソレ見ねえ、家の旦那が端た錢から何千兩といふ金を拵へた人で年頃になつても女房さい持たねえで爪へ火を點す様にして金を拵へる人が、江戸へ行く留守

看護婦急派の求めに應じます
平町南町
看護婦會
電話三〇七番

かまぼこ製造
お惣菜用 さつま揚げ
吉原揚
電話一四一番

中村齒科醫院
平町鍛冶町七

婦人科 院長 木村寅次郎
外科 醫學博士 内木宗八
藥局 藥劑師 玄番彌一
平町新川町十九
入院隨意 病室完備
木村病院
電話一六四番